

新型コロナウイルスの影響を受けた体育科授業実施に関する研究

檜尾一平 (和歌山大学)

1. 目的

本研究では、感染症の蔓延に対する学校としての体育授業に関する研究は少ないため、感染症の蔓延に伴う学校再開後の学校における体育授業の実施内容及び授業に対する不安や配慮事項を明らかにし、より効果的な取り組みの推進や今後同様の出来事が起きた際に役立てることを目的とする。

2. 研究方法

- 1) 対象者 全国の小学校教員(138人)、中学校(15人)、高校の保健体育科教員(3人)
- 2) 調査方法 2020年10月23日(金)～2020年12月25日(金)の間にGoogle社の提供するアンケートサービスGoogleフォームを用いた調査で回答を得た。
- 3) 分析方法 「和歌山」「首都圏」「その他」の3パターンでクロス集計を行い χ^2 検定を行った。記述式の回答はKJ法による分類で考察を行った。

3. 結果と考察

1) 授業の実施について

今まで通りに授業を実施できた地域は少なく、「指導の順序を組み替えた」、「接触の少ない内容を取り入れた」、という回答が多く見られた。体育科の授業を中止したという回答は少なかったため、体育科の授業が中止となった事例は少ないと予想される。

授業中の配慮として、「児童間の距離を確保する」が、多く挙げられた対策であったが、困難なことにおいて、「夢中になると密が発生する」が挙げられた。

2) 都市部と地方の差

地方と都市部においては、感染の身近さの違いの差よっての危機意識の違いや差が見られた。

また、方針による考えの違いが見られた。地方では方針そのものに困難を感じるのに対して、都市部では、自治体ごとの方針の違いに困難を感じていた(図1)。

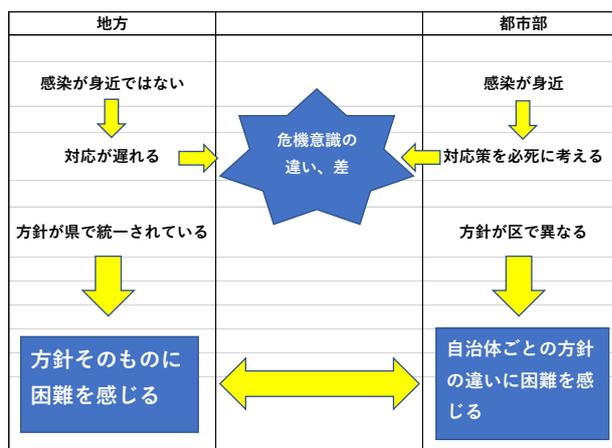


図. 1 都市部と地方の差

4. 結論

感染が身近でない地方においても、都市部で起こっていることに、関心を持ち、危機意識を感じることが重要である。しかし、授業における、困難や対策の工夫は、都市部と地方で共通する点もあった。この困難や工夫を個人や、学校内で留めるのではなく、体育の情報を集約したプラットフォームを構築するなどして、地域や校種に関わらず、広く共有していくことが重要であると考えられる。

5. 主な参考文献

- 1) 文部科学省(2020) 新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開等に関するQ&A